

令和四年度

国語

(文学科 日本語日本文学専攻)

9:30
～
11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は8ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があつたら、まずページ数、枚数を確認し(足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること)、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白は、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

【省略】

(東浩紀『ゆるく考える』二〇一九年、河出書房新社、232〜236ページより作成。)

注1 この夏 …… この文章の初出は、二〇一〇年二月。

注2 ブログ …… 個人が身の辺の出来事や自分の主張などを日記形式で書き込むインターネットのサイトのこと。

注3 SNS …… ソーシャルネットワークサービス。ネット上で共同体を構築できるサービスのこと。

注4 デリダ …… フランスの哲学者。

注5 ルーマン …… ドイツの社会学者。

注6 クリプキ …… アメリカの哲学者、論理学者。

注7 弁証法 …… 意見と反対意見との対立と矛盾の働きが、より高次の発展段階の認識をもたらすと考える哲学的方法。

問一 — 部①〜⑫の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問二 — 部ア〜オの語句の意味を説明しなさい。

問三 — 部A「人間のコミュニケーション一般の本質」とはどういうものにとらえられているか、本文の言葉を使いながらわかりやすく説明しなさい。

問四 — 部B「参加者のひとり他突然虚空に向かって声を張り上げている」とはどのような状況を示しているか、わかりやすく説明しなさい。

問五 — 部C「ツイッターにおいては、原理的に対話は成立しない」とはどういうことか、本文の言葉を使いながらわかりやすく説明しなさい。

二 次の文章は、頭中將に仕える男が、同じ主人に仕える小舎人童こどねりわらはに、主人の通いどころである式部卿宮しきぶのきやうのみやの姫君の邸の女房への文を託す場面です。これを読んで後の問いに答えなさい。

君の御方おんかたに若くて候まがらふ男注1、このましきにやあらむ、定めたるところ注2もなく、この童わらわに言ふ。「その、通アふらむところは、いつくぞ。さりぬべからむや注3」「と言へば、「八条の宮注4になむ。A知りたるもの候ふめれども、ことに若人注5あまた候ふイまじ。ただ、中将ちゆうじやう、侍従じじゆうの君注6などいふなむ、かたちもよげなりと聞きはべる」と言ふ。「さらば、そのしるべして、伝へさせよ」とて、文取らすれば、「Bはかなの御懸想かな」と言ひて、持て行きて、取らすれば、「あやしのことや」と言ひて、持てのぼりて、「しかしかの人」とて見す。手も清げなり。柳につけて、

「Cしたにのみ思ひみだるる青柳あをやなぎのかたよる風注7はほのめかさずや
知らずはいかに注8」とある。

「御返事かへりごとなからむは、いと古めかしからむ。今やう様さまは、なかなかはじめのをぞしたまふなる注9」などぞ笑ひて、もどかす。

D 少し今めかしき人にや、

E ひとすぢに思ひもよらぬ青柳は風につけつつさぞ乱るらむ

(『堤中納言物語』「ほどほどの懸想」より)

- 注1 君の御方に若くて候ふ男 …… 頭中將に仕える若い男。
注2 定めたるところ …… 妻と決めた女性。
注3 さりぬべからむや …… (一見するのに) ふさわしいところか。
注4 八条の宮 …… 童の主人頭中將が通っている、式部卿宮の姫君の邸。
注5 若人 …… 若い女房。
注6 中将、侍従の君 …… それぞれ女房の名。
注7 かたよる風 …… 味方をする風。仲立ちしてくれる童をたとえて言う。
注8 知らずはいかに …… 「知るや君知らずはいかにつらからむ我がかくばかり思ふ心(こ)を(こ)存じですか、ご存じないとはなんと薄情でしょう、私がこれほどまでに思う心(こ)を」
(『拾遺和歌集』恋二 読み人知らず)をふまえた表現。
注9 今やう様は、なかなかはじめのをぞしたまふなる …… 今風のやり方では、かえってはじめの手紙に返事をなさるものだとか。

問一 ― 部Aの「らむ」と同じ「らむ」を含む文節を本文中から抜き出しなさい。

問二 ― 部Iの「まじ」について、文法的に説明し、反対の意味となる語を本文中から抜き出し終止形で答えなさい。

問三 ― 部A「知りたるもの候ふれども」を現代語訳しなさい。

問四 ― 部B「はかなの御懸想かな」とあるが、なぜ童はそうに言ったのか、理由を答えなさい。

問五 ― 部Cの和歌の「青柳」は何をたとえているのか、のという形で答えなさい。

問六 ― 部D「少し今めかしき人にや」の下に省略されている語を書きなさい。

問七 ― 部Eの和歌を、「青柳」がたとえているものに注意して現代語訳しなさい。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

李夷簡、元和末在蜀。蜀市人趙高好鬪、常入獄。

滿背鏤毘沙門天王、吏欲杖背、見之輒止。恃此轉

為坊市患害。左右言於李、李大怒、擒就庁前、索

新造筋棒頭径三寸、叱杖子打天王。尽則已、數三

十余不絶。經旬日、袒衣而歷門、叫呼乞修理功德

錢。

(段成式『酉陽雜俎』より)

注 李夷簡……唐代の官僚。

元和……唐代の年号。八〇六〜八二〇年。

蜀……中国西南にある地域の名。現在の四川。

市人……坊市(市街)に住む人のことで、住民。

鏤……彫る。

転……ますます。「ウタタ」と読む。

筋棒……竹製の棒。

杖子……棒打ち刑の執行役。

旬日……十日。

問一 ——部Aを書き下し文にしなさい。漢字を使わず、すべてひらがなで書くこと(現代仮

名遣いでもよい)。なお、「恃」は「タノム」、「坊市」は「バウシ」と読みます。

問二 ——部Bのようにすることで李夷簡は何を意図しているか、わかりやすく説明しなさい。

問三 ——部Cを現代日本語に訳しなさい。このとき、「尽」「絶」を具体的に訳すこと。

問四 本文は誰のどのような行為に強い印象を受けて書かれたのか、わかりやすく説明しなさい。

